

平成18年度「専修学校におけるNPO団体等と連携したニートに対する
職業教育支援事業」成果報告書

事業名	“ジョブ・タッチ”プロジェクト (狭義の興味関心を入りに、ホームヘルパー講座を通じて、対人接触体験を積み上げ実践的職業観形成へ)		
法人名	学校法人未来学舎		
学校名	国際福祉専門学校		
代表者	理事長 望月 宗敬	担当者 連絡先	倉田 敬一 TEL0263-26-5500
<p>1. 事業の概要</p> <p>若者の興味や関心(フラワー・メイク・ITなど)を入りに、対人接触体験を積み上げて、実践的な職業観(フラワービジネスや介護職員)を形成させるカリキュラム作成と実証講座が当研究事業のねらいである。</p> <p>(1)ニートと言われる若者の価値観・職業観・特性を整理した。 ニート支援を行なっているNPOと連携して、ニートの特性を分類整理して、カリキュラムに応用すべき要件を体系的に分析整理した。</p> <p>(2)ニートが興味のある・訓練を続けられる分野の調査。 まず第1に、続けられる事を条件に、若者が興味のある分野を調査した。 更に、職業として実際に活躍が可能な分野を選定して、訓練講座が可能かどうか検討した。</p> <p>(3)分野別の訓練カリキュラム研究開発(ジョブ・タッチ講座) ニートが興味を持って続けられる分野について、実際の体験や実技訓練を通じて、やりがいや自信をもてるような訓練カリキュラムの構築を行なった。(フラワービジネス・メイクアップ・ITフォトショップ等)興味体験による入門から、仕事としての応用に導けるような流れに配慮して、少人数による実証講座を2回行なって検証した。</p> <p>(4)職業として定着する要件の研究 人とのかかわりという視点から、人材ニーズの高い介護職について注目し、正規職員として定着させる為の要件を整理した。 具体的に、過去の訓練修了生(ホームヘルパー2級)のその後の職業観や現場での課題やニーズを調査して、体系的に整理した。その結果、ヘルパー講座の法定時間だけでなく、力量をつける為の段階的施設実習を取り入れた訓練カリキュラムを考案した。 また、他職種に転向したケースの原因分析も行なった。</p> <p>(5)定着させるカリキュラムの研究開発と実証講座(ジョブ・トライ講座) 興味ある若者向けに、ヘルパー3級の入門講座を実施した。 更に、法定の2級ホームヘルパーカリキュラムだけではなく、正規職員として定着できる実務型の訓練カリキュラムを研究開発して、実証講座を行なった。 一口に介護職といっても、異なった組織や勤務内容が混在するので、自分に合った介護内容や職場環境を理解できる訓練要件に着目して実践した。</p>			
<p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p>			

(実践的職業観の形成)

- ・フラワーやメイクアップ、ITという興味の対象を軸に、職業としての知識や技術、心構えを習得し、就職に結びつけた若者を輩出できた。
- ・介護職について、ボランティアや知識にとどまらず、力量を持って現場の施設で正規雇用されることができた。

(対人接触体験の積み重ね)

- ・引きこもり傾向にある若者に対し、多彩な分野の訓練内容において、対人接触の訓練を行い社会への参加の道を築いた。
- ・特に他人へのメイクアップや、ITプレゼンテーションの発表・チームで行うヘルスケアメニューなどで訓練効果が現れた。
- ・介護職においては、学んだ技術を実際に社会現場で他人に施すという体験を積み重ねるカリキュラムの効果を確認できた。

(実証講座)

- ・41名の若者が訓練を受けて、アンケートからは前向きな結果で修了する若者が大半であった。

②事業により得られた成果

(ジョブ・タッチ講座)

ニートが興味を持って続けられる分野について、実際の体験や実技訓練を通じて、やりがいや自信をもてるような訓練カリキュラムの構築を行なった。(フラワービジネス・メイクアップ・ITフォトショップ等)興味体験による入門から、仕事としての応用に導けるような流れに配慮して、少人数による実証講座を2回(受講生22名)行なって検証した。その結果、平均出席率は80%を超え、習得した技術を活かす美容業界に2名、事務職3名、ITウェブ企業に2名の就職となった。

(ジョブ・トライ講座 ホームヘルパー2級 3級)

興味ある若者向けに、ヘルパー3級の入門講座を実施した。(3級取得6名)

更に、法定の2級ホームヘルパーカリキュラムだけではなく、正規職員として定着できる実務型の訓練カリキュラムを研究開発して、実証講座を行なった。(2級取得10名 全員)

一口に介護職といっても、異なった組織や勤務内容が混在するので、自分に合った介護内容や職場環境を理解できる訓練要件に着目して、実践した結果、事業終了までに4名の若者が介護福祉関連施設に就職を果たした。

③今後の活用

- ・若者の自律支援NPOに於ける活動の主たる要素の「相談業務」については、当校とかかわりのあったニートが自由に訪れて、支援を受けられるように連携していける。

また、不登校などが起こった場合にも、家に引きこもるだけでなく、居場所として活用してもらえることが望ましい。

- ・介護福祉人材研修支援NPOについては、介護職に携わった修了生が、仕事や職務技術・利用者さんとの距離ややりがいなどの悩みの発生の都度、訪問して支援を受けられるように連携していきたい。

④次年度以降における課題・展開

- ・若者の興味分野が多様化しており、無気力の場合もあり、訓練への入り口について、多様なカリキュラムの準備が必要である。

- ・検定を受検しない分野のカリキュラム(ex.フラワービジネスなど)に於いては、達成目標や訓練評価を標準化する必要がある。

3. 事業の実施に関する項目

① 自立支援アドバイザー

① ジョブ・タッチ講座での役割

生活面や人間関係を含めた支援の為、学校内の相談室で定期的にアドバイザーが待機した。
(講座期間中に5件の訪問があった)

他人の肌に触れるメイクアップ実習で、躊躇して参加できない若者の相談があった。このため、人形モデルを使う実習も取り入れた。

別途ヘルスケアの講座で、ハンドマッサージを受けるなどの経験で徐々に解決した。

フラワーアレンジメントは好きだが、パソコンには興味がないという若者がおり、ITの講座は無理に受講しない体制にした。

母親が学校と一緒に来るケースがあり、相談員が母親に子どもの自律促す事例もあった。

② ジョブ・トライ講座(ヘルパー講座)での役割

実習の時間にアドバイザーも参画して、時間内で声をかける相談方式を採用した。

アドバイザーは介護職員研修等で実績のあるNPOのスタッフで、具体的な職業観の相談や先輩としての支援を行なった。

介護職の要件や、職場環境、待遇面などの具体的な相談が7件寄せられた他、随時個々の相談に応じた。

特に外部の施設実習の直後に自信喪失の若者がおり、具体的な課題や心構え、やりがい等について対応した。

今回の事業研究のテーマである対人接触の機会が多く発生し、3回の施設実習の中で、アドバイザーの支援が、若者の悩みや課題を乗り越えていく為の支えになった。

② 講座の実施

(1) ジョブ・タッチ①講座 (60h)

興味分野の技術を体験する

(フラワー・ネイル・メイクアップ・IT・ヘルスケア)

- ・期間 H18年9月11日～9月26日(60時間)
- ・受講者 8名(男3・女5)
- ・教室 国際コンピュータビジネス専門学校(203)
ソラン(株)1階教室

・受講者の反応

出席率(フラワー85% メイクアップ75% IT80% ヘルスケア80%)

フラワービジネス分野は興味関心が深く、満足度が高かった。

メイクアップ分野は、他人に施術する段階で、馴染めない受講生が2名あった。

(2) ジョブ・タッチ②講座(100h)

興味分野の知識・技術を学ぶ

(フラワー・ネイル・メイクアップ・IT・ヘルスケア)

- ・期間 H18年10月17日～11月10日(100時間)
- ・受講者 14名(男3・女11)
- ・教室 国際コンピュータビジネス専門学校(203)・ソラン(株)1階教室(PC)
- ・受講者の反応 出席率(フラワー90% メイクアップ780% IT80% ヘルスケア80%)

フラワービジネス分野は、作品の持ち帰りを楽しみに、発表も積極的であった。

メイクアップ分野は、美容業界に就職希望の受講生が2名あり、クラスを牽引した。

ヘルスケア分野は、終盤の健康エアロビクス体験の時期には、楽しみにする受講生がいた。

(講座終了後、スポーツジムの会員になって、生活リズムや心身の健康に自信を持った若者もいた)

IT分野では、パワーポイントやフォトショップなど、ビジュアルな科目を楽しめるように手作り教材で実施。

プレゼンテーションの発表なども和気あいあいで行なえて、コミュニケーションが進んだ。

(講座終了間際にウェブ会社にアルバイトが決まった若者が出た。)

就職支援用に行なった授業は、新鮮味がないようで、出席率も70%どまり。

(3) ジョブ・トライ①講座 (63h)

ホームヘルパー3級への挑戦

(体験した技術を他者に行なう職業体験)

- ・期間 H18年12月6日～H19年1月11日(63時間 通信併用)
- ・受講者 9名(女9)
- ・教室 国際福祉専門学校(基礎介護実習室・入浴実習室)
ソラン(株)1階教室(介護講義)
- ・受講者の反応 出席率は90%
(初期の段階で3名が、アルバイト決定や自己に合わないなどで、受講を諦めた。)
ホームヘルパー3級は、介護施設等では部分的存在で、若者の関心が少なかった。

(4) ジョブ・トライ②講座 (201h)

ホームヘルパー2級取得

(正規職員を目指す定着する訓練 実習重視型)

- ・期間 H18年11月22日～H19年1月30日
- ・受講者 10名(女10)
- ・教室 国際福祉専門学校(基礎介護実習室・入浴実習室)
ソラン(株)1階教室(介護講義)
- ・受講者の反応 出席率は95%
職務やアルバイト経験のある若者が大半であり、学習意欲は一番高かった。
開校時から、欠席するとヘルパー2級の法定時間不足で、資格が取れない旨を告知。
結果、全員がホームヘルパー2級の資格を取得した。
特に「現場施設実習」を3段階で取り入れる事により、多くの職場体験ができた。
技術・知識だけでなく、力量のある介護職員を目指し、正規職員を目標とした。
初期の段階では不安を抱えた施設実習も、課題を持ち帰って学習に励んだ。
修了時点では、施設からの評価も高かった。

③ ニーズ調査

① 若者の興味分野と職業意識

若者の職業訓練カリキュラムを検討するにあたり、まず次の4点から検討した。

(当校で実施可能な分野の整理 若者が希望する分野の調査 業界に関する考察 若者支援NPOの要望)

ジョブカフェ中に、若者100名にアンケート調査を行なった。

- ・女性はフラワーやメイクアップに大きな関心、男性はIT分野に興味がある。
- ・男女共にホームヘルパーは仕事として価値を感じている。
- ・ヘルスケアも関心が高く、若者を引き付けられる。
- ・若者は礼儀作法より、資格・技術に関心が高い。

② ニートについて

ニートの若者達への支援として必要なことを整理できた。

それは、社会と適応させるためのいわゆる「矯正」ではなく、「勇気づけ・力づけ」するための手厚い支援が必要になってくる。

つまり、就労と直結していなくても、彼ら自身の根底からの自己回復を手助けしていくための働きかけが重要である。

ある分野への入り口段階でつまずきを感じると、その分野自体に苦手意識を強く残してしまうタイプの人がいることを考慮し、最初は出来るだけ身近に感じられる内容から何回かの授業で段階的に専門的なレベルの授業へ進んで行くことが望ましい。

また、途中段階の授業でも一回一回の授業で形に残る成果(例えばフラワーアレンジメント、ITソフトを使ってデータを作り、それをプリントアウトして作った雑貨など)があると満足度が高くなり、次回授業への積極的な参加、ひいては「仕事としてやってみたい」という意欲につながるので、各講座で考慮した。

④ その他

- ・若者の多彩な興味分野に対応したカリキュラムが作成でき、様々なニートを受け入れて訓練できた。
- ・ヘルスケア科目を導入し、若者の心身の健康管理(知識と技術)や他者とのコミュニケーションの為のエアロビクスの導入など斬新なカリキュラムで、引きこもりがちな若者の活力を取り戻した。
- ・一貫して、「他者とのかかわり」をテーマに、多分野のカリキュラム構築ができ、効果が確認された。

・3種類のノートに対応できるように4講座を実施した

タイプⅠ ⇒ ジョブ・タッチ講座

中心となる年齢： 15～21歳

性格：学生であれば中学3年～大学3年くらいの年齢。何らかの要因で学校に行けなくなり、引きこもった状態であることが考えられる。「働く」ということがどういうことなのかまだ意識していない。

タイプⅡ ⇒ ジョブ・タッチ講座 ヘルパー3級講座

中心となる年齢： 22～27歳

性格：大学新卒で就職できなかつたり、希望する職に就けず仕事の経験浅くして退職してしまつたりした。(いわゆる第二新卒)

・「自分は社会で役に立たないのかも」という自信の無さと、「働いた経験が無いが故の根拠の無いプライド(『これは私の仕事じゃない!』というような)」を併せ持つ

タイプⅢ ⇒ ジョブ・トライ講座(ヘルパー2級講座)

中心となる年齢： 28～34歳

性格：3年以上働いた経験がある人もいる(キャリアあり)

・自ら退職or雇用主理由での退職 退職の理由にもよるが、「働く」ということに対して心理的な準備は出来ていることが多い。